

# 大府市長を表敬訪問

協和工業 モノ作り300社選定で

【大府】元気なモノ作り中小企業三百社に選ばれたとして、経済産業大臣から感謝状を受けたジョイント専業メーカーの

協和工業（本社大府市横根町坊主山一ノ三二）の鬼頭佑治社長が二十八日、大府市役所に久野孝保市長を表敬訪問した。写真。

三百社に選ばれた企業への感謝状贈呈は、十九日に東京国際フォーラムで開かれた。同社は冷間鍛造で、自動車のステアリングジョイントをはじめ、農業機械や

建設機械向けのジョイントを製造する。中小企業の商品・技術開発などを支援する新連携支援制度にも認定される。鬼頭社長は、全国三百社に選ばれた理由について「三十年前、国内で初めて独自手法で冷間鍛造によるジョイント生産を始めた」と独自開発と技術蓄積にあるとし、「冷間鍛造はプレスや型の技術、熱処理の技術など総合的な技術力がないと不可能」と冷間鍛造の難しさを解説した。

ステアリングジョイントに採用される当初は「冷間鍛造では過剰品質でコスト高になる」と取引先の自動車メーカーから指摘されたが、パワーステアリングが油圧から電動に切り替わったことでジョイントに油圧より大きな加重がかかるようになり、同社製品が逆に「適正品質」として評価が高まっているという。

鬼頭社長は「専門メーカーとして、ジョイントはこうあるべきという姿を持っている。ユニバーサルジョイントは真っ直ぐな状態でも使え、組み立て時間の短縮など応用範囲は広い。ジョイントの使い方を提案して新たなマーケット開拓に努めたい」と抱負を述べた。

